

春の植付作業について

今年は降雪量が少なく、3月の気温も高く推移し融雪は非常に早く進みました。しかし、土壌凍結の影響で春耕期が遅れる可能性があります。

過湿条件での耕起や砕土・整地は、土壌物理性と透排水性が悪化しますので、ほ場の乾き具合を確認して作業を開始しましょう。

1 「てんさい」移植および直播は種のポイント

- ① ほ場条件が整いしだい移植（は種）する。
 - ・極端な早期移植（は種）は、霜害・凍害を受ける場合があるので注意する。
 - ・ポットの分離障害を避けるため、水管理等に注意しましょう。

【直播栽培】

- ① 土壌pHは5.8以上とする。
- ② は種深度は1～2cmを目安とし、土壌水分が少ない場合は1.5～2.5cmとする。
- ③ ほ場条件に応じて、種子・施肥位置を確認しながら作業する。
- ④ 全量作条施肥は、肥料ストレスを与えて出芽不良となる恐れがあるので避ける。
過湿・低地温条件での移植（は種）は、活着・生育不良による減収要因となります！

2 「ばれいしょ」植付のポイント

- ① 早すぎる植付に注意！ 地温が5℃を超えるまで植付を控える。
早期植付は低温遭遇による種イモの腐敗・不萌芽が発生するリスクが高まります！
- ② 土壌水分が過剰なときは植付けない。
- ③ 黒あざ病対策（消毒・催芽等）を行う。ロータリ耕盤層形成による変形いも発生に注意する。
- ⑤ 植付深度は3cm程度を目安とし、深植えを避ける。

3 春の農作業事故に注意しましょう！

春作業の遅れが懸念されますが、豊穰の秋を迎えるためにも作業計画を立て、焦らず、適度な休息を設け、安全作業を心がけましょう。

- 春の農作業事故例
- ・機上作業中、乗降時に足を滑らせ落下
 - ・トラック荷台のアオリに手指を挟む
 - ・手指が植付作業機に巻き込まれる
 - ・トラクタ転回（後進）時に作業者と接触する

